

御坊町 「伊勢音頭」の歌詞

ここに示す歌詞は、調査の際に「得意な歌」「グループ独自の歌」「雰囲気を考えて歌う歌」などと依頼して、歌われた歌の歌詞である。

『伊勢音頭調査報告書』の中の「御坊祭の〈伊勢音頭〉」（以下、「報告書本文」）では、歌われた歌詞の「歌い出し」を記すことで表7にまとめ、歌詞の概観を行った。表7では、歌のふしの種類によって、「短い歌」「長い歌（紀小竹組にのみ「ながうた」という独自の呼び名がある）」「つなぎ歌（引き継ぎ歌、受け取り歌）」をまとめて示したが、ここでは、収録の際の歌われた順に示している。（歌のふしの種類については、「報告書本文Ⅱの表3」参照）。

なお、表記は、歌詞は黒字で、囃しことばは、音頭（御坊町では音頭取りを「音頭」と呼んでいる）を赤字で、乗り子を青字で行っている。

歌詞のみ（囃し無）

◎歌い手（昭和44年生）

短い歌：ここは紀の国 郡（こおり）は日高 歌うところは 御坊まち

長い歌：ここのお家（いえ）は お花の家（いえ）だ 父は蓮華の花と咲き 母は芍薬
はれ牡丹 妹（いもと）吉野の八重桜 兄は何かと問うたなら 五月野に咲く
百合の花

つなぎ歌：わたし音頭は これにて終わり 後にご先生（せんせ）に 頼みます

◎歌い手（昭和37年生）

つなぎ歌：お受けしました 引き受けました 先の諸先生（せんせ）の 後をうけて

短い歌：来いというたとて 行かりよか佐渡へ 佐渡は四十九里 波の上

長い歌：わたしゃ魚衆 毎度ありがとう 一にめんだい二に小鯛 三にさごしか しけ
のうお 五ついななご 六つ（ムツ）なごや 七つないない 八つかます 九つこ
のしろ 飛び（トビ）のうお

つなぎ歌：わたしゃ音頭は これにて終わる 後は諸先生（せんせ）に 頼みます

◎歌い手（昭和48年生）

つなぎ歌：引き受けました 引き受けました 先のご先生（せんせ）の 後を受けて

短い歌：行ったら見てこい 御坊の祭り 蛇（じゃ）の天幕 錦織

長い歌：夕べ見た夢 大きな夢だ 奈良の大仏背に背負い 千石船を足に履き その帆
柱杖にして 近江の湖水を一口に 吸い上げりゃ引っ掛かる えへんと大きな
咳をすりゃ 瀬田の唐橋（からばし） 飛んでたよ

短い歌：わたし音頭は これにて終わる 後にご先生（せんせ）に 頼みます

◎歌い手（平成元年生）

短い歌：わたし音頭よ 引き受けました 先の諸先生（せんせ）の 後受けて

短い歌：お伊勢詣りで この子ができて お名をつけましょ 伊勢松と

長い歌：娘十七、八 嫁入り盛り 姉さ今度の嫁入りに 箆筒長持ち鋏み箱 ついでに
衣装もどっさりと れだけ持たせてやるからにゃ 二度と戻っておいでるな
そこで娘のいうことにゃ ととさんかかさんそりゃ無理よ 西が曇れば雨とや
ら 東曇れば風とやら 千石積んだる船でさえ 風がかわせば 出て戻る

～～～

◎歌い手（昭和 63 年生）

短い歌：御坊よいとこ 三筋のまち 東中西 上と下（しも）

短い歌：まだもあります 横町小路（よこまちしょうじ） 西の境は 古寺内（ふるじ
ない）

◎歌い手（昭和 53 年生）

短い歌：とろりとろりと 廻るは淀の 淀の川瀬の 水車

長い歌：紀州紀の国 蜜柑の出どこ 青いうちから見初められ 赤くなるのを待ちかね
て 箱や木箱に詰められて 汽車や汽船に乗せられて 駿河の富士山あとに見
て 東京新橋日本橋 吉原女郎衆に身を売られ 客につくときゃ 丸裸

◎歌い手（昭和 56 年生）

短い歌：咲いた花より 咲く花よりも 咲いて散る花 なおよかろ

長い歌：めでためでたの 神様あれど 一番はじめは一宮 二で日光東照宮 三で讃岐
の金比羅さん 四（しい）で信濃の善光寺 五つ出雲の大社（やしろ） 六つ村
のお地藏さん 七つ奈良の大仏さん 八つ八幡（やはた）の八幡宮 九つ高野の
弘法さん 十（とお）でところの 氏神さま

◎歌い手（昭和 59 年生）

短い歌：立てば芍薬 座れば牡丹 歩く姿は 百合の花

長い歌：紀州名所は 数々あれど 煙樹ヶ浜をば右に見て その又上には日の岬 安珍
清姫道成寺 梅を見るなら南部梅（なんぶうめ） そして御坊は 秋祭り

◎歌い手（昭和 48 年生）

短い歌：御坊の乗り子は 元気よく叩け 年に一度の 秋祭り

長い歌：火事と喧嘩は お江戸の華だ め組とは組のある中で 野狐三次は纏持ち
背（せな）に白狐の入れ墨を 入れた入れ墨 男伊達

歌詞（囃し有）

◎歌い手（昭和44年生）

サーヨーイサーエここは紀の国ヨ ヨーイヨイ ソーレ郡（こおり）は日高ヨ サーヨーイ
イセイコラセ ソーレ歌うところはヨーイソーレ 御坊まちヨ ソラヤートコセ
エエヨーイヤナ ソリャ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

サーヨーイサーエここのお家（いえ）はヨ ヨーイヨイ ソーレお花の家（いえ）だヨ
サーヨーイセイコラセ ソーレ父は蓮華の花と咲き ソーレ 母は芍薬はれ牡丹 ソ
ーレ 妹（いもと）吉野の八重桜 ソーレ 兄は何かと問うたなら ソーレ 五月ナ
エ野に咲くヨーイソーレ 百合の花ヨ ソラヤートコセ エエヨーイヤナ ソリャ
ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

サーヨーイサーエわたし音頭はヨ ヨーイヨイ ソーレこれにて終わりヨ サーヨーイ
セイコラセ ソーレ後にご先生（せんせ）にヨーイソーレ 頼みますヨ ソラヤートコ
セ エエヨーイヤナ ソリャ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

◎歌い手（昭和37年生）

サーヨーイサーエお受けしましたヨ ヨーイヨイ ソーレ引き受けましたヨ サーヨーイ
イセイコラセ ソーレ先の諸先生（せんせ）のヨーイソーレ 後をうけて ソラヤート
コセ エエヨーイヤナ ソリャ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

サーヨーイサーエ来いというたとてヨ ヨーイヨイ ソーレ行かりよかヨ佐渡へヨ サ
ーヨーイセイコラセ ソーレ佐渡は四十九里ヨーイソーレ 波の上ヨ ソラヤートコ
セ エエヨーイヤナ ソリャ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

サーヨーイサーエわたしゃ魚衆ヨ ヨーイヨイ ソーレ毎度ありがとうヨ サーヨーイ
セイコラセ ソーレーにめんだい二に小鯛 ソーレ 三にさごしかしけのうお ソー
レ 五ついななご六つ（ムツ）なごや ソーレ 七つないない八つかます ソーレ 九
つこのしろヨーイソーレ 飛びのうおヨ ソラヤートコセ エエヨーイヤナ ソリャ
ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

サーヨーイサーエわたしゃ音頭はヨ ヨーイヨイ ソーレこれにて終わるヨ サーヨーイ
イセイコラセ ソーレ後は諸先生（せんせ）にヨーイソーレ 頼みますヨ ソラヤート
コセ エエヨーイヤナ ソリャ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

◎歌い手（昭和48年生）

サーヨーイナーエ引き受けました ヨーイヨイ 引き受けましたヨ サーヨーイセイコ

ラセ ソーレ先のご先生（せんせ）のヨーイソーレ 後受けてヨ ソラヤートコセ エ
エヨーイヤナ ソリャ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

サーヨーイナーエ行ったら見てこいヨ ヨーイヨイ 御坊の祭りヨ サーヨーイセーコ
ラセ ソーレ蛇（じゃ）の天幕ヨーイソーレ 錦織ヨ ソラヤートコセ エエヨーイヤ
ナ ソリャ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

サーヨーイナーエ夕べ見た夢ヨ ヨーイヨイ 大きな夢だヨ サーヨーイセーコラセ
ソレー奈良の大仏背に背負い ソーレ 千石船を足に履き ソーレ その帆柱杖にして
ソーレ 近江の湖水を一口に ソーレ 吸い上げりゃ引っ掛かる ソーレ えへんと大
きな咳をすりゃ ソーレ 瀬田のナーエ唐橋（からばし）ヨーイソーレ 飛んでたよ ソ
ラヤートコセ エエヨーイヤナ ソリャ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨー
イートセ

サーヨーイナーエわたし音頭はヨ ヨーイヨイ これにて終わるヨ サーヨーイセーコ
ラセ ソーレ後にご先生（せんせ）にヨーイソーレ 頼みますヨ ソラヤートコセ エ
エヨーイヤナ ソリャ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

◎歌い手（平成元年生）

サーヨーイナーエわたし音頭よ ヨーイヨイ ソーレ引き受けましたヨ サーヨーイセ
ーコラセ ソーレ先の諸先生（せんせ）のヨーイソーレ 後受けてヨ ソラヤートコセ
エエヨーイヤナ ソリャ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

サーヨーイナーエお伊勢詣りでヨ ヨーイヨイ ソーレこの子ができてヨ サーヨーイ
セーコラセ ソーレお名をつけましょヨーイソーレ 伊勢松とヨ ソラヤートコセ エ
エヨーイヤナ ソリャ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

サーヨーイナーエ娘十七、八 ヨーイヨイ ソーレ嫁入り盛りヨ サーヨーイセーコラ
セ ソレー姉さ今度の嫁入りに ソーレ 箆筒長持ち鉄み箱 ソーレ ついでに衣装も
どっさりと ソーレ これだけ持たせてやるからにゃ ソーレ 二度と戻っておいで
な ソーレ そこで娘のいうことにゃ ソーレ ととさんかかさんそりゃ無理よ ソー
レ 西が曇れば雨とやら ソーレ 東曇れば風とやら ソーレ 千石積んだる船でさえ
ソーレ 風がナーエかわせばヨーイソーレ 出て戻るヨ ソラヤートコセ エエヨー
イヤナ ソリャ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

ヨーイヤッサ

ヨーイヤッサ

ヨーイヤッサ

～～～

◎歌い手（昭和 63 年生）

ヨーイヤッサ

サーヨーイナーエ御坊よいとこヨ ヨーイヨイ ソーレ三筋のまちヨ サーヨーイセーコラセ ソーレ東中西ヨーイソーレ 上と下（しも）ヨ ソラヤートコセ エエヨーイヤナ ソリャ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

サーヨーイナーエまだもありますヨ ヨーイヨイ ソーレ横町小路（よこまちしょうじ）ヨ サーヨーイセーコラセ ソーレ西の境はヨーイソーレ 古寺内（ふるじない）ヨ ソラヤートコセ エエヨーイヤナ ソリャ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

◎歌い手（昭和 53 年生）

サーヨーイナーエとろりとろりとヨ ヨーイヨイ ソーレ廻るは淀のヨ サーヨーイセーコラセ ソーレ淀の川瀬のヨーイソーレ 水車ヨ ソラヤートコセ エエヨーイヤナ ソリャ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

サーヨーイナーエ紀州紀の国ヨ ヨーイヨイ ソーレ蜜柑の出どこヨ サーヨーイセーコラセ ソーレ青いうちから見初められ ソーレ 赤くなるのを待ちかねて ソーレ箱や木箱に詰められて ソーレ 汽車や汽船に乗せられて ソーレ 駿河の富士山あとに見て ソーレ 東京新橋日本橋 ソーレ 吉原女郎衆に身を売られ ソーレ 客にナーエつくときゃヨーイソーレ 丸裸ヨ ソラヤートコセ エエヨーイヤナ ソリャ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

◎歌い手（昭和 56 年生）

サーヨーイナーエ咲いた花よりモ ヨーイヨイ ソーレ咲く花よりもヨ サーヨーイセーコラセ ソーレ咲いて散る花ヨーイソーレ なおよかるヨ ソラヤートコセ エエヨーイヤナ ソリャ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

サーヨーイナーエめでためでのヨ ヨーイヨイ ソーレ神様あれどヨ サーヨーイセーコラセ ソーレ一番はじめは一宮 ソーレ 二で日光東照宮 ソーレ 三で讃岐の金比羅さん ソーレ 四（しい）で信濃の善光寺 ソーレ 五つ出雲の大社（やしろ） ソーレ 六つ村のお地蔵さん ソーレ 七つ奈良の大仏さん ソーレ 八つ八幡（やはた）の八幡宮 ソーレ 九つ高野の弘法さん ソーレ 十（とお）でナーエところのヨーイ

ソーレ 氏神さまヨ ソラヤートコセ エエヨーイヤナ ソリャ ハリバンヨーイ
コレバンヨイ ソラヨーイートセ

◎歌い手（昭和 59 年生）

サーヨーイサーエ立てば芍薬ヨ ヨーイヨイ ソーレ座れば牡丹ヨ サーヨーイセー
コラセ ソーレ歩く姿はヨーイソーレ 百合の花ヨ ソラヤートコセ エエヨーイヤ
ナ ソリャ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

サーヨーイサーエ紀州名所はヨ ヨーイヨイ ソーレ数々あれどヨ サーヨーイセー
コラセ ソーレ煙樹ヶ浜をば右に見て ソーレ その又上には日の岬 ソーレ 安珍清
姫道成寺 ソーレ 梅を見るなら南部梅（なんぶうめ） ソーレ そしてナーエ御坊は
ヨーイソーレ 秋祭りヨ ソラヤートコセ エエヨーイヤナ ソリャ ハリバンヨー
イ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

◎歌い手（昭和 48 年生）

サーヨーイサーエ御坊の乗り子はヨ ヨーイヨイ ソーレ元気よく叩けヨ サーヨーイ
セーコラセ ソーレ年に一度のヨーイソーレ 秋祭りヨ ソラヤートコセ エエヨー
イヤナ ソリャ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイートセ

サーヨーイサーエ火事と喧嘩はヨ ヨーイヨイ ソーレお江戸の華だヨ サーヨーイセ
ーコラセ ソーレめ組とは組のある中で ソーレ 野狐三次は纏持ち ソーレ 背（せ
な）に白狐の入れ墨を ソーレ 入れたナーエ入れ墨ヨーイソーレ 男伊達ヨ ソラヤ
ートコセ エエヨーイヤナ ソリャ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヨーイ
ートセ

ヨーイヤッサ

ヨーイヤッサ

ヨーイヤッサ